

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 15 日現在

機関番号：32702

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K02462

研究課題名(和文) 自分の健康と命を守り、自己を成長させ、体と心と社会的な健康の土台を育む就学前教育

研究課題名(英文) Preschool education that children become able to protect their own health and life, to develop themselves and that nurture the foundation for children's physical, mental and social health

研究代表者

渡部 かなえ (Watanabe, Kanae)

神奈川大学・人間科学部・教授

研究者番号：50262358

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：園児の運動能力が低いことに園の狭さが影響していること、運動能力の二極化傾向がみられ園児の間に運動能力格差が生じていることが明らかになった。また、子どもが直面している健康・安全の問題にはけがの防止や災害時の避難や交通安全など、コロナ以上に必要なことがあること、子どもたちは遊びを通して命と健康を守るための生きる力を育てていることが分かった。また、幼児教育が非認知スキルの育ちや就学後の学力、成人後の社会格差にまで影響を及ぼしていることが推察された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本の幼児教育施設の狭さが幼児の運動能力の低下に繋がっていることから、元気に遊べる保育環境の整備と改善の必要性を提言した。また日本の幼児教育は情緒的で、優しく気遣いのできる子どもに育つが、自分の意見を述べたり議論する力の育ちは十分ではなく、個としての自立支援に課題があるという問題提起を行った。また東日本震災の被災地の子どもたちと保護者はいまだ健康に不安を持っており、継続的な支援が必要なことが、子どもが描いた絵の質的分析とボランティアへのアンケート調査から明らかになり、また子どもたちへの支援がボランティア(大人)たちの気づきと学びの機会になっていることが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：The small size of preschools affected the low athletic ability of preschool children. There was a tendency to polarize children's athletic aptitude, which created a disparity in their athletic capability. In addition, regarding the health and safety issues that children face, there are more important issues than COVID-19, such as injury prevention, evacuation at the time of disaster, and traffic safety. We confirmed that children foster the zest for living to protect their own health and life through play. In addition, we inferred that early childhood education affects the development of non-cognitive skills, academic ability in elementary and secondary schools, and social disparities after adulthood.

研究分野：子ども学(子ども環境学)

キーワード：子ども 保育環境 健康 幼児教育

1. 研究開始当初の背景

(1) 日本は先進国の中で相対貧困率が高く、教育、食事、医療が不安定な状態ある子どもがいる格差社会である(内閣府・経済同友会, 2017)。スウェーデンの先進事例から各国政府は子どもを保護する政策を導入したが、ニュージーランドや米国の子どもの健康や安全の深刻な状況に改善は見られなかった(Glibelt, 2012)。貧困層への成人後の教育投資効果は極めて低いが、しかし貧困層の幼児への就学前教育は広い意味での社会的成功や健康管理などにつながる事が報告された(Heckman, 2013)。

(2) 経済格差の深刻な影響は、小学校の段階で教育だけでなく健康や安全の格差に及んでいるが(Watanabe・Dickinson, 2015)。就学前の園児には健康格差はほとんどなく(Watanabe・Dickinson, 2017)。幼児教育・保育段階での介入の必要性が示された。また、幼児は、他者との間で「教える・学ぶ」相互作用がある環境で、体験を通してアフォーダンス(環境が人に与える意味)を知覚する力が育つことが示された(渡部, 2015)。

2. 研究の目的

格差社会で子ども達が自分の健康と命を守り、自己を成長させ、生涯にわたる体と心と社会的な健康の土台となる力を育む就学前教育について、以下の点を明らかにすることを目的とした。

(1) ともに幼児教育に力を入れていながら、格差が少なく危険な状況にある子どもが極めて少ないスウェーデンと、深刻な格差社会で危機的状況にある子ども達の存在が問題になっているニュージーランド、そして日本の検証から、多様な力の中で、おそらくは複数のどの様な力が育まれることで、自分の健康や命を守り、生涯にわたる体と心と社会的な健康を作ることができるのかを明らかにする。

(2) 子どもの観察から、自分の健康と命を守り、生涯にわたる体と心と社会的な健康の土台となる力は、どのような就学前教育の環境で、どのような体験を通して生まれ、子どもの自己発展・自分自身の成長につながっていくのかを検討する。

(3) 子どもたちの健やかな育ちの支援への関わりが、大人にとってどのような影響・効果があるのかを明らかにする。

3. 研究の方法

新型コロナウイルス感染症の世界的なパンデミックで、研究期間中にフィールドワークを始めとする国内外での調査研究を行うことが長期に渡って困難な状況になった。加えて、ウクライナ情勢の影響で航空便が飛行中止となり、スウェーデンでの調査ができなくなるなど、予定していた方法での研究の遂行に大きな制約が生じた。実際の研究は以下の方法で実施した。

(1) どのような力を幼児期に育むことを就学前教育が目指しているのかを、スウェーデンとニュージーランドの就学前教育のナショナル・カリキュラムと日本の新しい幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領の分析(テキストマイニング)から明らかにする。

(2) 子どもが自分の健康と命を守り自己の発展・成長を育む就学前教育の検証を、保育現場での子どもの観察調査と保育士へのインタビュー調査および作成教材から行う。

(3) 子どもへの支援をすることが、大人の学びと成長の機会になることを、子どもが描いた絵の質的分析と、被災地で子ども支援を行った学生ボランティアの記録から検討する。

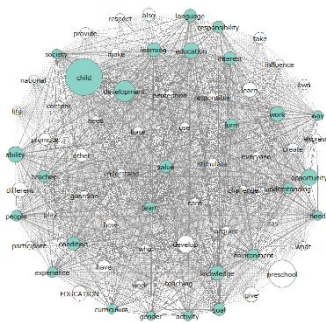
4. 研究成果

(1) スウェーデンとニュージーランドの就学前教育のナショナル・カリキュラムと日本の新しい幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領の分析(テキストマイニング: 共起ネットワーク)から、社会格差が小さいスウェーデンの幼児教育カリキュラム(ECC)は包括的・全人的(ラウンド)で、格差が大きいニュージーランドのECCは分析的、格差レベルが両国の中間的な日本のECCは中庸で、ECCと社会格差に関係性があることが示唆された。

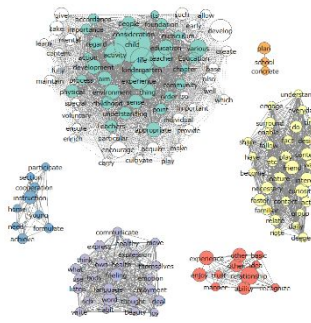
【研究業績】

・渡部かなえ, 子どもの健やかな発育発達を支援するスウェーデンの幼児教育カリキュラム, 人文研究 198, 25-36, 2019.

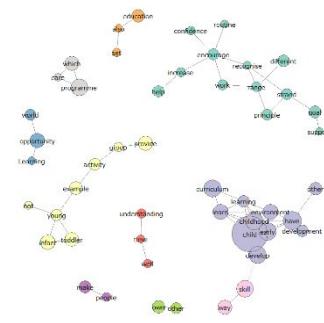
・Kanae Watanabe, Comparative study among Sweden, New Zealand and Japan on effects of national curriculum of early childhood education on resolving social disparity, Asia Pacific Journal of Contemporary Education and Communication Technology Vol.7, Issue 1,



スウェーデンの ECC



日本の ECC



ニュージーランドの ECC

(2) 子どもの健やかな育ちの支援について、ニュージーランドの保育との比較から、日本は保護者も保育者も「頑張りすぎない」、「できることをできる範囲でやればよい」と考えることが、実は今(コロナ前の2018年の時点)、一番必要であると推察された。

【研究業績】

・渡部かなえ, 発育発達と子育て支援の視点から見た日本とニュージーランドの子どもの健康と健康教育, 人文研究 197, 43-54, 2019.

また、新型コロナウイルス感染症の拡大で、子どもの健康を取り巻く状況も大きく変化した。感染症の拡大以前からあった子どもの健康問題はいまだ解決されていない上に、感染症の拡大でそれらへの取り組みがいっそうできなく・なされなくなっており、別の病気への適切な予防や処置の機会も失っている危険性が示唆された。さらに、近年の子どもたちの運動能力の低下傾向や、園の狭さが子どもの運動能力の低さに影響していることに加えて、コロナによる外出制限(登園の制限も含む)や公園などの遊具の使用禁止が子どもの体力・運動能力の低下にさらに深刻な影響を及ぼしていること、それらを補うために保育者や保護者が努力や工夫をしているが、平均値の低さだけでなく、体力・運動能力の二極化傾向も見られ、幼児期から既に子どもたちの間に体力・運動能力の格差が生じていることを報告した。

【研究業績】

・渡部かなえ, 感染症の拡大で見えなくなっている子どもの健康の問題, 人文研究 203, 429-437, 2021.

・Kanae Watanabe, Motor skill and physical activity among preschool children in Japan, 人文学研究所報 68, 35-44, 2022.

・渡部かなえ, 新型コロナウイルス感染症禍の園児の体力, 人文学研究所報 67, 77 - 82, 2022.

子どもたちが自分の命と健康を守る力をつけることへの、絵本を用いた教育の意義と効果や、保育者による子どもの健康教育・安全教育の教材作成から、今、子どもたちに必要なのは、感染予防だけでなく、元気に遊ぶことの大切さや事故や災害から身を守る教育の重要性である、という提案を行った。また、子どもたちは遊びを通して自主性や主体性、感受性や創造性、頑張ることや仲間と協力することを学んでいき、それが健やかな生きる力の基盤となっていくことを、自然体験活動や身体表現の育ちを通して検証した。

【研究業績】

・渡部かなえ, ヘルスリテラシーを学ぶ子どものための健康学の絵本, 人文研究 202, 33-40, 2021.

・Kanae Watanabe, Creation of teaching materials of the health and safety education for preschool children, 6th Asia Pacific Conference on Contemporary Research (APCCR-2023) (国際学会), 2023.

・渡部かなえ, 自分の命を守る幼児のための安全教育の教材作成, 人文学研究所報 69, 37-43, 2023.

・Kanae Watanabe, The current situation and issues of mentally disabled children's nature experiences according to the qualitative analysis of parents' questionnaire, 4th Online Conference on Multidisciplinary Academic Research (OCMAR-2021), Australia. (国際学会), 2021.

・渡部かなえ, 生きる力を育む遊びの中の身体表現の育ち, 人文研究 208, 101-112, 2023.

(3) 東日本大震災から数年が経過しても、被災した子どもたちはトラウマを抱えていることが、子どもが描いた絵の質的分析から明らかになり、子どもたちに寄り添い続けることの重要性和必要性が明らかになった。同時に、そのような子どもたちを支援するボランティア活動を通して、大人自身にも様々な気づきや学びがあることが分かった。



(震災を経験していない子)
海遊びの後、思い出を絵に描く



(被災地から逃れてきた子) 数年を経ても
外で遊ぶことが怖く、外遊びの絵も描けない

【研究業績】

・ Kanae Watanabe, Children's support needs concerned with growth and development post 3.11 Earthquake and necessary disaster measures for future, 人文学研究所報 62, 55-60, 2019.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 渡部かなえ	4. 巻 203
2. 論文標題 感染症の拡大で見えなくなっている子どもの健康の問題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人文研究	6. 最初と最後の頁 429-437
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡部かなえ	4. 巻 67
2. 論文標題 新型コロナウイルス感染症禍の園児の体力	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 人文学研究所報	6. 最初と最後の頁 77 - 82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kanae Watanabe	4. 巻 Vol.7, Issue 1
2. 論文標題 COMPARATIVE STUDY AMONG SWEDEN, NEW ZEALAND AND JAPAN ON EFFECTS OF NATIONAL CURRICULUMS OF EARLY CHILDHOOD EDUCATION ON RESOLVING SOCIAL DISPARITY	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Asia Pacific Journal of Contemporary Education and Communication Technology	6. 最初と最後の頁 10-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 渡部かなえ	4. 巻 202
2. 論文標題 ヘルスリテラシーを学ぶ子どものための健康学の絵本	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人文研究	6. 最初と最後の頁 33-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Watanabe Kanae	4. 巻 62
2. 論文標題 Children's support needs concerned with growth and development post 3.11 Earthquake and necessary disaster measures for future	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人文学研究所報	6. 最初と最後の頁 55-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡部かなえ	4. 巻 198
2. 論文標題 子どもの健やかな発育発達を支援するスウェーデンの幼児教育カリキュラム	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人文研究	6. 最初と最後の頁 25-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡部かなえ	4. 巻 197
2. 論文標題 発育発達と子育て支援の視点から見た日本とニュージーランドの子どもの健康と健康教育	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人文研究	6. 最初と最後の頁 43-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 Kanae Watanabe
2. 発表標題 The current situation and issues of mentally disabled children's nature experiences according to the qualitative analysis of parents' questionnaire
3. 学会等名 4th Online Conference on Multidisciplinary Academic Research (OCMAR-2021), Australia. (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kanae Watanabe
2. 発表標題 COMPARATIVE STUDY AMONG SEWDEN, NEW ZEALAND AND JAPAN ON EFFECTS OF NATIONAL CURRICULUMS OF EARLY CHILDHOOD EDUCATION ON RESOLVING SOCIAL DISPARITY
3. 学会等名 2nd Online Conference on Multidisciplinary Academic Research (OCMAR-2020), Australia (国際学会)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------